

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月28日(木)

会場： 三良坂コミュニティセンター

1. 地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
自主防災の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・三良坂町内の自主防災組織は、各10自治振興区に自主防災組織があり、三良坂町自主防災会連合会が束ねている。 ・活動としては、町内を6か所に分けて、備北消防などと連携した防災訓練をしている。 ・現在、県の災害危険地域の基礎調査をもとに、26か所に分けた防災マップを作成し、各戸に配布している。各地域では、勉強会などで使用してもらっている。 	-
避難所の開設について	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所については、基幹避難所、補助避難所のほか、42か所の地域避難場所(集会所、大きな施設、民家など)がある。令和2年や3年の大雨の際は、基幹避難所であるみらさか福祉センターや補助避難所である三良坂支所へは数名避難されたが、地域避難場所には避難者がなかった。 ・補助避難所を開設することはできるが、長引くと自主防災組織だけでの運営は厳しく、閉めるタイミングの判断も難しい。 ・皆瀬地区では、平成30年豪雨の際、地域避難場所である集会所へ5名ほど避難した。地区の自主防災役員は三良坂の対策本部に行っており、消防団員も出払っていたことから、当該地区には目が届かない状況だった。他地区の避難所が閉鎖される一方で、川の水位がまだ高い状態でダム放水の放送があり、避難所にいる方々を帰宅させることができなかった。全域に避難指示を出してもいいが、支流にはそれぞれの事情がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年8月は大雨が長期化し、避難所開設にあたるマンパワー不足という課題が浮き彫りになった。現実的にどう対応するか検討する必要がある。 ・市の職員は日常業務も行わなければならない、避難所運営に携わる市職員のローテーションが難しい状況であったが、それは自主防災組織の皆さんも同様であったと思う。自然相手なので人の力が及ばないこともある。合理的で無理をしすぎない体制に少しずつ改善していく必要がある。例えば、消防団を退職された方々に呼びかけ、避難所の開閉設を手伝ってもらおう。この場合、市から手当を支給することもできる。 ・閉鎖のタイミングについては、気象台などからの情報に頼らざるを得ない。
防災意識と避難行動について	<ul style="list-style-type: none"> ・灰塚地区はダムより高い場所にあるので、防災意識はやや薄いと思われる。 ・高齢者にとって、ハザードマップなどの地図はわかりづらいため、説明会を開催している。具体的な避難経路まで話をして住民に避難行動の意識をもってもらう必要がある。 ・三良坂町には土砂災害の危険区域が多い。祭などの機会を利用して、保存食を試食してもらうなど、防災に関する取組をしている。また、町内では、地域で核となる防災士の育成についても積極的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に、自分の命は自分で守るといった防災意識を常に持っていただけるよう、市や自主防災などでの避難訓練等を継続していかなければならない。今年度、国や県と連携して大規模な洪水想定訓練を実施したところ、8月の大雨時の対応に一定程度効果があった。多くの市民が避難訓練や防災講演会などに参加する環境を整えていきたい。 ・令和3年度予算で、洪水を体験できるVRカメラを5台購入しているので、地域での住民啓発などに役立ててほしい。 ・地域の皆さんが、マイ・タイムラインを活用して、自宅から避難所までの経路・距離・時間などを日頃からシュミレーションし、自分の身の回りの危険度を把握しておくことが有効である。必要であれば市から資料を提供する。 ・自主防災組織の活動については、課題を共有し、市としてフォローをしていく。
水位の状況把握について	<ul style="list-style-type: none"> ・川の水位が大事な情報であるが、特定の地区にしき水位計がないので、支流の水位状況もわかるようにしてほしい。 ・橋脚に危険水位等の線を入れてほしい。目で見える印の方が分かりやすい。 	支所では、上流の吉舎町の水位や県の防災システムを参考に、河川状況を把握している。情報提供のあり方も含めて、課題として捉えている。
河川事業について	県による河川改修や堆積土砂の浚渫のおかげで、今回被害が出なかった。	-

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月28日(木)

会 場： 三良坂コミュニティセンター

2. 持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
食による地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・区画整理地区に居住する若者を中心に、商店街を歩かれる人が増え、その様子に商店街の方々も喜んでいる。 ・11月20日に、キッチンカー10台ぐらいを呼んでマルシェをする予定である。 ・三良坂町としては、「食」に関わるパンフレットを作成し、各地で配付している。 ・三良坂町の賑わいは、Mirasaka Coffeeのようなチャレンジショップから少しずつ広がりを見せている。一方で、老舗の店がなくなっているのは寂しい。 	<p>コーヒー店舗などを訪れてみると、三良坂町の市街地は盛り上がっていると感じる。</p>
灰塚ダム周辺の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイヅカ湖畔の森について整備計画を進められているが、商店街などと結びつけて、まち全体を活性化できるようにしてほしい。 ・今度、ウォーキングイベントを開催する。知和ウエットランドなども含めて、地域資源を活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイクのタイムトライアルができるなど、灰塚ダムには多くの魅力がある。キャンプサイトにしてワーケーションを受け入れることができるような取組を進めている。また、様々なイベントを重ねながら、人の流れをつくっていきたい。 ・灰塚ダムの周辺道路は、ロードバイクの大会を開催する絶好のロケーションである。コロナ禍の中で重要となっている食や運動と、灰塚ダムの活用をリンクさせることで、活性化につながる。
観光振興について	<p>辻堂が多くあることから、本や御朱印帳をつくった。また、福善寺周辺には天然記念物のナラガシなどが点在している。三良坂町には、文化や歴史などが多くあるので、それらをつなげて、地域活性化に生かしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みよし観光まちづくり機構と三次市観光協会の統合準備を進めるとともに、観光ビジョンを作成し、共有を図っていく。これにより、市内各地を結び、三次市にしかできないことを行って、観光消費額を増やしていく。 ・三次市街地にホテルが開業する予定であり、三次市にビジネスや観光のニーズがあることを表している。 ・文化財を保護するだけでは費用がかかるので、活用しなければならない。例えば旧播山家住宅は改修したが、活用できていない。作木町にある殿敷のように、文化財を普段使いすることで、文化財が生きてくる。使用に関する課題解決については、担当部署と検討している。